

子供へのヒアリングを通じた意見聴取に関する検討会（第3回）

議事要旨

日 時：令和6年3月18日（月）11:00～13:00

場 所：オンライン開催

参加者：安部芳絵委員、内田塔子委員、川瀬信一委員、小平房代委員

【議事】

（1）実践事例集（案）について

【議事録】

<主な意見等>

■ 子供のペースを尊重したファシリテーションについて

- ・ 無理に意見を引き出すのではなく、子供の声を待つことが重要。ファシリテーター研修に関する記載の中に「待つ」というキーワードを入れていただきたい。
- ・ ヒアリングのグランドルールの例示に「話を聴いているだけでもOK」といった記載を追加することで、事例集を読んだファシリテーターが「必ずしもその場で意見を求めなければいけないわけではない」ということを感じ取ってもらいたい。
- ・ ファシリテーターは、意見を聴き出すことをミッションだと捉えて前のめりになりがち。子供が参加したいときに参加し、参加したくないと思ったら降りられるというように、参画のプロセスにおける自己決定を保障することが大事。
- ・ 第1部のセーフガーディングの項目に、子供が大人からやられて嫌なことが追加され、分かりやすくなった。さらに「意見を無理矢理言わせない」を追加できると、意見を言えなくても、その場に参加しているだけでもよい、ということが読み手にも伝わると思う。

■ 子供へのフィードバックについて

- ・ フィードバック用の冊子は、見開きで左側に子供の声、右側に対応するアクションとなっていることで非常に分かりやすい。
- ・ 「都から区市町村に補助金を出す」という記載については、補助金という言葉の意味を注記することに加えて、東京都と区市町村の役割を簡潔に説明できるとよい。それを見て、子供たちが次は区市町村に意見を言ってみたいと思うなど、次のアクションにつながるとよい。
- ・ 子供の声を聴いて政策を実行したとしても、子供が訴えている問題点とはズレが生じやすい。どのような問題から子供が声を上げているのかを理解することが大事。
- ・ 易しく書かれすぎていると、高校生は自分に向けられたものではないと捉えてしまう。対象者ごとに分かりやすいフィードバックにしていくことが今後の課題。
- ・ 「はじめに」の文章が「声を聴くために、…ヒアリングをさせていただき」となっており、前後の内容が同じになってしまっている。ここでは「訪問させていただき」といった記載にするとよい。

■ その他、実践事例集の記載について

- ・ 「困難を抱えている子供」という表現は、その原因や解決の責任が子供にあるかのようにも見えてしまう。「困難な状況にある子供」というような表現がベター。